

臨時農業生産情報

(生育が早まった稲の技術対策)

平成 25 年 7 月 17 日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

県内の水稲は、平年に比べ2日～4日程度早い幼穂形成期を迎え、生育が進んだ水田では低温に最も弱い穂ばらみ期に達しています。

この数日の気温は、平年並みで推移する見込みとなっているものの、最低気温が17℃前後と予想されている地点があることから、稲の幼穂の大きさを確認し、次のとおり生育ステージに応じた適切な水管理等を徹底してください。

- 1 中干しを実施している場合は、直ちに中止し、幼穂形成期から10日間は、水深10cm程度の「幼穂形成期深水かんがい」を徹底する。
入水にあたっては、水田の水温が急激に低下しないよう徐々に深水とする。
- 2 穂ばらみ期（幼穂形成期10日後～出穂7日前）は、低温に最も弱い時期なので、平均気温20℃以下、又は最低気温17℃以下の低温が予想される場合は、15cm以上の深水にして幼穂を保護し、障害不稔の発生を防止する。
高温が続く場合は、4cm程度の水深にして時々水を入れ替え、根の活力低下を防ぐ。
- 3 葉いもちが平年より早く見え始めているので、ほ場をよく見回り、発生を認めた場合は、直ちに茎葉散布剤による防除を行う。



報道機関用提供資料	
担当課	農産園芸課
担当者	稲作振興グループ 腰巡主幹
電話番号	直通 734-9480 内線 3456
報道監	農林水産部 八桁農商工連携推進監（次長） 内線 3181